瀬戸内国際芸術祭2025公式イベント「塩サミット」等での熱中症対策

「瀬戸内国際芸術祭」は、3年に1回、瀬戸内海エリアを舞台に開催されています。毎回、国内外から多数のアーティストが参加し、また多くの来場がある国際的な芸術祭です。

今年開催された「瀬戸内国際芸術祭2025」では、芸術作品の展示のほか、「塩」に縁の深い瀬戸内海エリアでの開催ということで、「塩」をテーマにした複数のイベントが開催されました。

その中で最大のものが、10月5日（日）に香川県宇多津町のユープラザうたづハーモニーホールで開催された「塩サミット」で、塩に縁がある人々が集まり、塩について語りつくすというイベントです。

塩と暮らしを結ぶ運動では、この「塩サミット」に協賛し、塩タブレットやウチワ、ポスターを提供しました。

10月5日当日は、約200名の来場があり、第一部「塩と食文化」、第二部「塩の道～宮本常一と塩」、第三部「塩と生きる人々」の三部構成で、各分野の研究者や、塩づくりに携わっておられる方々が登壇され、とても興味深いお話が展開されました。またその後は、「大塩会（だいえんかい）」と題して交流の場が設けられ、こちらも多くの参加者で賑わいました。

塩タブレットやウチワは、10月5日だけでなく、「瀬戸内国際芸術祭2025」の夏会期（8月1日～31日）及び秋会期（10月3日～11月9日）において、主に芸術祭のボランティアサポーターに配布されました。

ボランティアサポーターは、屋外や冷房設備の整っていない古い空き家等に設置された芸術作品を来場者に案内するなどの活動を行いましたが、今年の夏も猛暑であったこと、日本の暑さに慣れていない海外からのサポーターもおられたこともあり、塩タブレットやウチワは大変役に立ち、ご好評をいただいたということです。また10月5日「塩サミット」当日も、汗ばむような陽気だったため、「塩サミット」来場者の方々にも大いに喜ばれました。

「瀬戸内国際芸術祭2025」全体では、塩タブレット2,000セット、ウチワ500枚を活用いただきました。またくらしおの熱中症対策啓発ポスターも、各地で掲示されました。

塩サミット　第二部

塩サミット　会場入口付近

ボランティアサポータへの配布